

授業科目	* 専門演習 I (塚本)				単位	2		
履 修	必修	関連資格	日本語教員		ナンバリング	EN31601J/ E		
開講年次	3	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2			
担当教員	塚本 美紀							
授業概要	「専門演習 I」は半期(15 週)完結の科目であるが、後学期開講の「専門演習 II」に直結した科目である。このため、同一受講者が受講することになっている。加えて、次年度も継続指導が原則であるため、担当教員は、4年次の卒論指導(必修)も念頭に入れて、2年がかりの指導をすることになる。すでに授業内容の概略が事前(2年次の10月)に提示され、ゼミ受講者が決定しているため、2週目以降の詳細は、各担当者が、英語学科 DP の9項目を充たす指導内容を組み立てて、授業時に提示することになる。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際的視野・地域的視野での豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。</li> <li>2. 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけることができる。</li> <li>3. 現代社会の諸問題について論じ、対応策を考えることができる。</li> <li>4. 英米文化のみならず世界の文化に関心を持ち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。</li> <li>5. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創り出すことができる。</li> <li>6. 国際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。</li> <li>7. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を役立てることができる。</li> <li>8. 他者と協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。</li> <li>9. 情報収集・情報処理能力を身につけることができる。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合/ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	30	0	20	100	
知識・理解 (DP1-1)			10			10	20	
知識・理解 (DP1-2)			5	5		5	15	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			5	5			10	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			5	5			10	
関心・意欲 (DP3-2)						5	5	
態度(DP4-1)			5	5			10	
態度(DP4-2)			5				5	
態度 (DP4-3)			5	5			10	
技能・表現 (DP5-1)			5	5			10	
技能・表現 (DP5-2)			5				5	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の諸問題について論じ、対応策を考えることができる。</li> <li>2. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創り出すことができる。</li> <li>3. 国際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。</li> </ol>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際的視野・地域的視野での豊かな教養・幅広い知識を身につけることができる。</li> <li>2. 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけることができる。</li> <li>3. 英米文化のみならず世界の文化に関心を持ち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。</li> </ol>				

4. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を役立てることができる。	4. 他者と協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 5. 情報収集・情報処理能力を身につけることができる。			
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	テーマ:オリエンテーション(各担当者による教科運営に関する詳細な説明など) 各ゼミ履修予定者は、担当教員のテーマとその概要に基づいて、すでに振り分けられている。このため、第2週目以降の、DP9項目を念頭に置いた授業進行の詳細に関しては、各担当教員より提示される。。	講義・演習	各担当教員からの課題に応じて、予習・復習を繰り返すことになる。	120
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				

19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語4技能の基礎知識</li> <li>2. 豊かな教養獲得のための基礎知識</li> <li>3. グローバルな視点での多文化理解</li> <li>4. 他者と協働可能なコミュニケーション能力</li> <li>5. 情報収集能力及び情報処理能力</li> </ol>			
テキスト	担当教員ごとに紹介します。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	担当教員ごとに紹介します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>専門演習 I・II(通称ゼミ)は受動的な教科ではありません。過去2年間で培ってきた各自の力を能動的に発揮できる教科です。このため、受講者は各指導者の基で、何事にも積極的に取り組んで下さい。努力すればする程、その結果は将来のあなたの糧になります。</p>			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	<p>各履修者は、現行カリキュラムにおいて、総合人間科学(文化と宗教・心身と健康・環境と情報・国際社会と現代)や専門教育科目(専門基礎科目・専門基幹科目・専門展開科目・演習・研究)の中で、2年次までに履修してきた科目(特に英語の専門科目)についてのフィードバックをしておく必要がある。そのことを踏まえて、3年次のゼミ生として、該当 DP9項目をどのように充たすかによって、達成度が評価されるが、原則的には以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポート 50%</li> <li>2. プレゼンテーション 30%</li> <li>3. その他(=授業貢献度) 20%</li> </ol>			

